

『聖霊に励まされて前進』(使徒の働き 9章 31節) 2020.5.31.

<はじめに> 異例な状況下で今年のペンテコステを迎えました。世界は以前とは異なる局面に入ったと異口同音に聞かれます。すっきりと不安が解消されて従来に戻れるのではなく、新しい時代に進もうとしています。このような大きな転換点に、主は何を私たちに語られるのでしょうか。

I 平安を得た教会

① 迫害者サウロの回心(1-30)

「こうして」は、直前に記されているサウロの回心を指しています。彼が率先していた迫害は、教会に大きな痛手を与え、信者は各地へ離散させられました。そのサウロが回心し、使徒たちと面会したことで組織的迫害が鈍り、迫害者は造反したサウロ殺害を企てます。

② シャローム

迫害が治まって、教会と信者が平安を得たのはごく自然なことです。安心を得て落ち着いただけに留まらず、教会はそれを基に前進・拡大していきます。平安はヘブル語でシャローム、健全・安寧・繁栄の意も含みます。

③ 広がる教会(8:4-8、11:19-26)

迫害前はエルサレムが教会の中心でしたが、信者たちが散らされた先々で主を証しました。やがてユダヤ・ガリラヤ・サマリヤの各地に教会が生み出されて行きます。迫害さえも用いて、聖霊は教会を早く広く深く各地に築き上げたのです。

II 主を恐れる教会

① 祈りは聞かれた(I コリント 10:13)

多くの聖徒たちの血と涙に、信者たちは迫害が止むようにと切に祈ったはずですが、サウロの回心という形で応えられました。迫害の急先鋒が回心するなど、思いもよぬ展開にただ驚き喜ぶだけでなく、祈りに応えて大いなることをなされる主をおそれ崇めました。

② 主の計画を知る(ロマ 8:28)

使徒 1:8 を弟子たちは聞いていましたが、福音はゆっくり広がりました。そこに迫害が起こり、信者は散らされ、結果福音が急速に各地に広まりました。試練を通して、主は聖徒たちを祈らせ、錬りきよめ、考え直させ、新しい方向へと押し出されます(ヘブル 12:10-11)。

③ 主権者は神

権力、知識、富を持つ者がこの世を治めていると思いがちです。目に見えないウィルスが私たちの生活を翻弄し、それとの戦いに目を奪われてはなりません。真の支配者、時代のドライバーは、甦られた主なる神・聖霊であり、この御方を私たちは内に宿しています。

III 前進する教会

① 聖霊に励まされて(ヨハネ 16:13-15)

共におられ、全てを導かれる王なる主を認めるならば、時代・物事を見る目が変わります。聖霊は御言を思い起こさせ、主イエスを常に指し示し、この方に目を留めるようにと教会と信者に働き掛けます。これが聖霊の励まし方です。聖霊の御声が響いていますか。

② 前進し続ける

教会と信者は、主が望まれることを明確に捉え、それに向かって進みます。迫害した者さえ赦し受け入れ(21-30)、癒し・回復をもたらし(32-43)、特権意識・偏見を捨てて異邦人回心者とともに喜び(10-11章)、危機には祈り(12章)、聖霊の計画に順応します(13章～)。

③ プロセスがあつての結果

教会・信者の増殖という結果に注目しがちですが、結果にはプロセス(経緯)があります。時代や環境、人為的要因などを結果が伴わない言い訳にしているいませんか。それらが主因だと捉えていることを手放し、内におられ励まされる聖霊に信頼し、従うべきです。

<おわりに> 世は新しい時代の覇権争いに移って行くでしょう。しかし教会には、真の支配者なる神の御国の証しが託されています。聖霊は初代教会を励まし、導かれました。同じ聖霊が与えられている私たちも、主の御思いを受け取り、前進するのです。(H.M.)